

もみじ太鼓

平成29年度 10月13日
京都市立高雄中学校 学校だより
なかま・夢・成長～夢を育む学び舎の創造～



平成29年度全国学力学習状況調査の結果について

4月18日に、本校3年生14名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

国語科より

A問題（主として知識を調査する）とB問題（主として活用を調査する）を観点別にみると、「読む能力」「書く能力」の正答率は良好でしたが、「話す・聞く能力」と「言語についての知識・理解・技能」に課題が見られます。スピーチに際して「資料を効果的に活用する」「工夫を加え、発表する」ことの正答率は高くなっていますが、「話すための材料を人との交流を通して集める」「相手に分かるような語句を選択する」ことの正答率が低くなっています。また、漢字・語句に関する問題の正答率がかなり低くなっています。これらのことから、語彙力の点で不十分さが見られます。日頃から他の人の話をしっかり聴いて学び、自分の考えをまとめ直していく活動を大切にしていきたいと思えます。

【語彙力を伸ばすためのアドバイス】

- 読書量を増やしたり、継続して新聞のコラム欄を読んだりしましょう。
- 毎時間実施している漢字プリントの復習や漢字・語句を中心にした問題集をやりましょう。
- 小学校や中学校で学習した漢字や語句をもう一度見直し確認しましょう。

数学科より

A問題（主として知識を調査する）とB問題（主として活用を調査する）を観点別にみると、「数量や図形などについての知識・理解」「数学的な技能」の正答率は良好でした。「数学的な見方や考え方」の問題の正答率が低く、無解答の問題もありました。基本的な計算や問題については、一定の理解が見られますが、長い文章を丁寧に読み取り「何を問われているのか」そして「数学的に説明する」というあたりに大きな課題があることがわかります。数学では、従来「答えを求める部分」が重視されてきましたが、近年は「答えにいたるまでの過程や理由」に重点が置かれています。日々の授業の中で、「問題の解き方・考え方」を説明する機会を増やしていきたいと思えます。

【記述式問題へのアドバイス】

- 関数分野では「グラフの読み取り問題」で問題文をしっかりと読み、何を問われているのかを理解しましょう。図形分野では「証明問題」で筋道をたてて考え、答案を通してしっかり相手に伝える練習をしましょう。
- 今まで行った定期テストや学習確認プログラムの問題をもう一度解き直すことも効果的です。

生徒質問紙調査から (1)

<家庭学習について> 本校生徒の家庭学習の特徴を全国平均と比べてみると「家で学校の宿題をする」「授業の復習をする」という項目は、全国平均を大きく上回っています。しかし、「土曜日や日曜日に、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか。」という項目は「1時間から2時間」「1時間以下」と答えた生徒の合計が71%でした。教科では、その日の授業を家庭でもう一度復習をすることを推奨したり、学習課題を配布したりしています。このことが、家庭学習の定着に一定の効果を与えていると思われませんが、自学自習の定着を図るためには、さらなるステップ・アップの必要があります。

生徒質問紙調査から (2)

＜規範意識について＞「規則を守る」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」という問いについては、全国平均を上回っています。子どもたちの思いを大切にしながら、道徳教育の充実を図り、さらに意識向上を目指す取り組みを推進したいと考えます。

＜自尊感情について＞「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「将来の夢や目標を持っている」という問いについては全国平均を上回っています。学校ではキャリア教育として、将来展望を持てるように様々な体験や取組を実施していますが、調査結果より本校生徒の多くは将来に夢や希望を持って、その実現のために日々頑張っていることがうかがえます。

＜地域への関心や参画＞「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」という問いについては全国平均を大きく上回っています。地域行事に積極的に参加することで、次世代を担う中学生が地域のことを考える素地が育まれていると考えます。今後も積極的に地域行事に参加し、地域に貢献できる子どもたちに育てていってほしいと思います。

全体を通した本校の課題と成果

本校では、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という京都市の方針のもと、学力向上の取組に関しては、高雄小学校と全校調査やジョイントプログラム等の学力の情報を共有して、日々の指導方法の改善や、個に合った指導に努めています。



生徒も、日頃の学習に対して前向きに取り組み、学校行事や地域行事等に積極的に参加し、学校全体として良い雰囲気のもとで頑張っています。

今回の調査で、目標を持って努力しようとする事、規範意識や自尊感情の育成も図れていることが明らかとなりました。一方、自分の考えを説明したり相手に伝えるように文章にまとめたりすることが苦手な生徒が多く、新聞や本を読む生徒が非常に少ないことがわかりました。また、家庭学習として宿題ややらなければならない課題はしっかり取り組みますが、自らの課題に自主的に取り組むことができていない点が課題としてあげられます。

学校として、「朝読書」に取り組んだり、授業で発表の場を増やしたりしています。また「積み重ね学習」として各教科から、毎日の課題を配っています。これにより、家庭学習の習慣化にむけては一定の成果があがっていると考えられますが、生徒一人一人の学習到達度や目指す進路は違うので、自分の課題をしっかり把握して、今の自分に必要な学習に取り組むこと（自学自習）ができるように努力していかなければならないと思います。

【保護者の皆様へ】

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今後とも、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。